

## 現代中国研究センター第5回全体研究会

テーマ：「『文史資料』工作の展開と民国史叙述—1950～60年代 上海を中心として」

報告者：林 美莉（台湾・中央研究院近代史研究所研究員）

日時：2016年10月26日（金）18：00～20：00

司会：高橋伸夫（慶應義塾大学）

場所：大学院校舎8階 東アジア研究所共同研究室1

使用言語：中国語

### 【概要】

本報告は『文史資料』とは何かという問題意識の下で展開された。結論から言うと報告者は、中国共産党が1950年代後半から上海などで積極的に推進した『文史資料』の編纂は、単なる「歴史を記す」ことではなく、1957年からの反右派運動と緊密に関係していると論じた。『文史資料』の作者として選ばれたのは基本的に戦犯、旧知識人、旧国民党人などの非共産党員の人々である。共産党は、彼らを政治協商会議に参加させ、さらに『文史資料』に原稿を寄せさせることを通じ、彼らを政治的に包摂することを図った。そして徴収した原稿はほとんど採用せず、採用した原稿にも大幅な修正を加えるなどした。このような編集作業に対する考察を通じ、共産党による民国史の再構築とその政治的目的を見出すことができると主張した。質疑応答では、『文史資料』の信憑性や史料として利用するときの注意点、『文史資料』と中央研究院が推し進めるオーラルヒストリープロジェクトを比較する意義などについての問題が提起された。